

## 香川

## 海底ごみ：豊かな海を取り戻そう 回収へ、高松の漁船出発式 / 香川

実感されにくい海底ごみの多さを明らかにし、環境保護を考える「海底ごみ目に見える化計画」が始まり、2日、ごみ回収出発式が高松市瀬戸内町であった。20日までに市内4漁協の延べ約400隻が、底引き網の操業中にごみを回収。9月には、ごみ分析作業の見学会や高松市役所での報告会が開かれる。

瀬戸内の環境保護活動に取り組むNPO法人「瀬戸内オリーブ基金」と、ボランティア団体「海守(うみもり)さぬき会」が実施する。瀬戸内海の海底ごみは推定約1万3000トン。川や沿岸に捨てられたペットボトルや缶、レジ袋などがほとんどといい、海洋生物に害を及ぼすなどの環境問題を引き起こしている。

式には、漁業関係者ら約20人が参加した。市瀬戸内漁業協同組合の北野広治組合長が「豊かな海になるように頑張りましょう」と呼び掛け、早速、底引き網漁船6隻がごみ回収に出発した。同漁協理事の岡本勝さん(64)は「操業中に自転車を引き揚げたこともあり、誰が捨てたのかと不思議に思う。この活動が皆さんのマナーを見直すきっかけになれば」と話した。【馬淵晶子】